

2026年1月5日作成

第1.0版

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた試料・情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の試料・情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの試料・情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

結合組織の一種である細網線維における鍍銀染色法の
精度管理および染色手技・工程に関する研究

1. 対象となる患者さん

2025年1月1日から2025年12月31日までの期間に、肝臓および脾臓の摘出手術を行われた患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 病院病理部 龍見 重信

3. 研究の目的と意義

病理組織診断には組織標本スライドが必要不可欠ですが、不良な組織標本スライドは誤った診断にも繋がる可能性があります。そのため、日常業務における標本の精度管理および不十分な場合の原因追及・改善は標本作製を担う臨床検査技師にとって重要な仕事となります。不良の要因としては、染色液の調整不良や染色工程の不備等による染色不良があります。

また、近年、化学物質の使用における健康被害リスクの評価が義務付けられ、より一層化学物質の使用における配慮が必要となっていますが、組織標本作製における染色には多種多様な化学物質を使用します。

これらより、組織標本作製における精度管理および染色手技・工程に関する研究を行うことはより良い病理診断に繋がり、患者さんへの貢献に寄与するだけでなく、多様な化学物質を使用する技師自身の健康を守ることに繋がります。

鍍銀染色法は細網線維を良好に染色することができる染色法で、日常業務で頻繁に用いられますが、染色液の調整が煩雑であり、また染色工程も多く、精度管理の難しい染色法の

一つです。また、その染色工程においては、多数の化学物質を使用します。したがって、鍍銀染色法における染色液の調整の不備や染色工程の不備がどのような染色結果をもたらすのか、および化学物質の使用数を減らすことをできないのかを検討することは良好な結果および職場環境を維持するうえで重要となります。

4. 研究の方法

- ① 細網線維染色における鍍銀染色法のうち、代表的な渡辺の鍍銀法に準じた染色工程を採用します。渡辺の鍍銀法の染色工程には、酸化や還元、鍍銀等複数のステップが含まれ、各ステップに試薬（化学物質）の調整や異なる反応時間が決められています。

そこで、各ステップにおける試薬濃度や反応時間の時間の違いが最終的な染色性にどのような影響をもたらすのかを検討します。

- ② ①に示した通り、複数のステップが含まれるということは、すなわち複数の化学物質を使用することとなります。

そこで、化学物質の使用を減らすことができないか、もしくは、同じ作用を有するより危険性の低い化学物質に代替可能であるかを検討します。

- ③ ①および②の評価は主として染色性の可否（染色態度、色調、共染の有無等）を肉眼による主観的評価を採用します。可能であれば、色の数値化による客観的評価を行います。

5. 使用する試料・情報

生体試料：「1. 対象となる患者さん」に記載の患者さんから摘出され、ホルマリン固定し保存されている残余臓器各3例。

診療情報：臨床診断名・病理診断名。

6. 試料・情報の管理責任者

奈良県立医科大学
学長 細井 裕司

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2027年3月31日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は研究責任者により厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用いたします。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公開いたしません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 病院病理部 龍見 重信

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051（代表）

e-mail：statsu@naramed-u.ac.jp